

第4回「津島復興会議」を2026年1月24日（土）に開催いたします。

第4回 津島復興会議（みんなで討論！『復興塾』を核にした住民参加型の復興計画）が1月24日（土）福島県浪江町津島支所（つしま活性化センター）にて開催されます。

第4回

津島復興会議
みんなで討論


「復興塾」を核にした住民参加型の復興計画
2026年
1月24日 土 13:00 ~ 16:00
会場：浪江町津島支所（つしま活性化センター）

開催趣旨

住民主体の復興へ — 津島をみんなで取り戻す！
令和7年6月、国の復興方針が変更され、帰還困難区域のバリエード撤去や森林整備が進められることになりました。しかし、突然の発表に津島の人々は自分達が切捨てられたと感じました。国から押し付けられる復興ではなく、住民自身が考え、提案し、討論して決めることこそ「真の復興」です。住民による住民のための復興を目指し、津島を再び活気あるふるさとへと復活させていきましょう。

住民の皆さんと一緒に考え、自由に提案し、みんなで討論して決める、そうすることで真に津島を復活させることになるのではないでしょうか？
(具体例は裏面をご覧ください)

ゲストコメンテーター 依光隆明（よりみつ たかあき）さん



ジャーナリスト
1957年高知市生まれ
高知新聞で社会部長などを経て、2008年12月朝日新聞入社
福島第1原発事故を追った「プロメテウスの民」で2度目の新聞協会賞を受賞した。

主催：一般社団法人 原発事故影響研究所
共催：一般社団法人 ヒューマニタリアン・サポート
協力：獨協医科大学 放射線衛生学研究室

第4回 津島復興会議

『復興塾』を核にした住民参加型の復興計画
開催日：2026年1月24日（土）
時間：13:00 ~ 16:00
会場：浪江町津島支所（つしま活性化センター）

こだわりを活かせる強み

今回、いくつか催しの提案をしますが、それらへの賛否だけでなく、もっと別の案があればご提案ください。

1) 津島復興塾
幼くして津島を離れた若者や避難先で生まれた津島を知らない子どもたちに津島の人情やふるさとの魅力を体験する夏休み、冬休みを利用した合宿

2) 古民家再生プロジェクト
津島の限られた技能者とボランティアが協力し古民家を修復、伝統芸能の場や宿泊所として活用。

3) 郷土料理・伝統芸能の継承
津島のおせちや凍み餅などを伝え、田植え踊りや獅子舞を保存・継承。

4) 農業再生
有機農業のノウハウを活かし、ボランティアと共に田植えや収穫を再開。

図放射能計測や放射線安全管理はお手のもの

獨協医科大学放射線衛生学研究室福島分室の協力により、内部・外部被ばく管理や現地の土壌や植物等の放射能濃度を常備している測定器により測定します。

原発事故影響研究所の研究業務
・帰還困難区域における未除染地域の汚染土壌の復元検証実験
・里山再生
・貯留池計画

主催：一般社団法人 原発事故影響研究所
共催：一般社団法人 ヒューマニタリアン・サポート
協力：獨協医科大学 放射線衛生学研究室

一般社団法人ヒューマニタリアン・サポート（所在地：福島県二本松市、代表理事：木村真三）は、一般社団法人原発事故影響研究所（所在地：福島県浪江町、代表理事：池内了）と共に、2026年1月24日（土）浪江町津島支所「つしま活性化センター」にて第4回「津島復興会議」を開催いたします。今回は住民の皆さまに検討していただきたい催しや取り組みの提案を行い、住民一人ひとりが自由に意見を出し合い、共に考え、議論し、津島の真の復活につながるような会議を目指します。今回はゲストコメンテーターとしてジャーナリストの依光隆明さんをお招きし、当団体代表の木村真三が進行と解説を担当いたします。



つしま活性化センター

開催場所

浪江町役場津島支所（つしま活性化センター）

開催日時

2026年1月24日（土）13:00～16:00

参加費用

無料です、どなたでも参加できます

お気軽にお越しください。

開催趣旨

令和7年6月20日に閣議決定された『（第2期復興・創生期間）以降における東日本大震災からの復興の基本方針の変更について』では、帰還困難区域に設置されているバリケードを撤去し、住民が自由に森林へ立ち入れる環境を整備すること、さらにこれまで手つかずであった森林整備を進め、里山の恵みを活かす取り組みが示されました。しかし、住民の多くは、同年6月4日に報じられた自公による「第14次復興・創生計画」のニュースによって初めて国の方針を知ることとなり、突然の計画に戸惑いの声が上がっています。地域の実情を十分に反映しない「お仕着せの復興」では、持続的で地に足のついた復興にはつながりません。外部の大手コンサルタントによるイベント主導の町おこしでは、資金が尽きた後に地域が再び停滞し、高齢化が進む中で何もできなくなる恐れがあります。

私たち一般社団法人放射線影響研究所および一般社団法人ヒューマニタリアン・サポートは「住民のための、住民による、本当の意味での復興」を実現するため、住民の皆さまが主体となって未来を描く場をつくることを目的とした取り組みをいくつか提案いたします、それらへの賛否だけでなく、別の案があればご提案ください。



古民家再生プロジェクト



農業再生

（提案1）津島復興塾

幼くして津島を離れた若者や避難先で生まれた津島を知らない子どもたちに津島の人情やふるさとの魅力を体験する夏休み、冬休みを利用した合宿を計画。

（提案2）古民家再生プロジェクト

津島の隠れた技能者とボランティアが協力し古民家を修復、伝統芸能の場や宿泊所として活用。

（提案3）郷土料理・伝統芸能の継承

津島のおせちや凍み餅などを伝え、田植え踊りや獅子舞を保存・継承。

（提案4）農業再生

有機農業のノウハウを活かし、ボランティアと共に田植えや収穫を再開。

放射能計測や放射線安全管理はお手のもの

獨協医科大学放射線衛生学研究室福島分室の協力により、内部・外部被ばく管理や現地の土壌や植物等の放射能濃度を常備している測定器により測定します。

原発事故影響研究所の研究業務

- ・帰還困難区域における未除染地域の汚染土壌の復元検証実験
- ・里山再生
- ・貯留池計画

ゲストコメンター



依光 隆明（よりみつ たかあき）さん

ジャーナリスト

1957年高知市生まれ

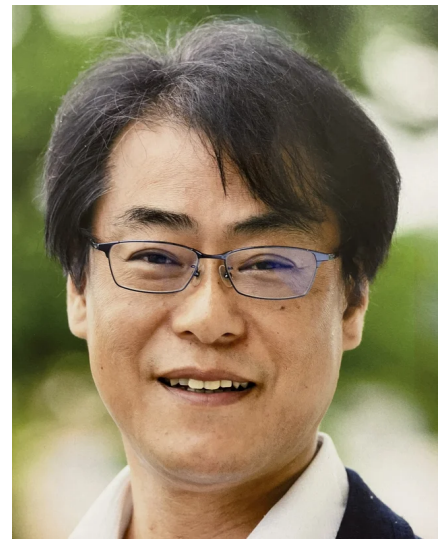
高知新聞で社会部長などを経て、2008年12月朝日新聞入社、福島第1原発事故を追った「プロメテウスの罠」で2度目の新聞協会賞を受賞した。

依光 隆明（よりみつ たかあき）さん

【司会】木村 真三（きむら しんぞう）

放射線衛生学者 1967年愛媛県生まれ

科学技術庁 放射線医学研究所、独立行政法人労働安全衛生総合研究所を経て、2011年8月から獨協医科大准教授。チェルノブイリ原発事故被災地での被ばく調査を2000年から続ける。東京電力福島第1原発事故直後から現地に入り、住民の被ばく防止に努めた。



木村 真三（きむら しんぞう）

一般社団法人 原発事故影響研究所について

福島第一原発事故から15年が経過しようとしています。政府は避難指示の解除や帰還政策を進め、放射能汚染の問題が軽視されつつあります。私たちは、この風化の流れに抗し、事故で拡散した放射線量の継続測定、地域住民の健康と環境衛生の改善、そして放射能に関する学習会や啓発活動続けるため、一般社団法人「原発事故影響研究所」を設立しました。

【会社概要】

法人名：一般社団法人 原発事故影響研究所

所在地：福島県双葉郡浪江町大字下津島字町36番地

代表理事：池内 了

設立：2024年2月27日

ホームページ：<https://311saisei.wordpress.com/>

一般社団法人ヒューマニタリアン・サポートについて

原発事故被害者を取り巻く環境には、直接的な被害はもとより、人権侵害に繋がるような出来事が見受けられます。私たちは人道支援（Humanitarian Supports）を通じて問題の本質を探っていくことを目的に活動して参ります。

【会社概要】

一般社団法人ヒューマニタリアン・サポート

所在地：福島県二本松市太田字西勝内67番地

代表理事：木村真三

設立：2022年11月1日

ホームページ：<https://fukushimacamp.com/>

当プレスリリースURL

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000022.000112823.html>

一般社団法人ヒューマニタリアン・サポートのプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/112823

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

〒964-0111

福島県二本松市太田字西勝内 6 7 番地

一般社団法人ヒューマニタリアン・サポート

広報担当：松本 利実

TEL：080-4519-3839

メール：support@fukushimacamp.com